

平成22年度 発達障害研究所 所内セミナープログラム

日時 平成23(2011)年3月1日(火) 09時30分～15時40分  
2日(水) 09時30分～15時02分

場所 管理棟講堂

発表時間 一人12分(発表:9分 質疑応答:3分)

3月1日(水)

所長あいさつ(09:30-09:35)

所長(09:35-09:47)

1. 細川昌則 この1年の研究の進捗状況

遺伝学部(09:47-10:35)

1. 武藤宣博 環境中の活性酸素発生物質の探索
2. 山田裕一 遺伝病の原因遺伝子解析
3. 山田憲一郎 多様な臨床症状と脳MRI画像を呈するSLC19A3異常症
4. 若松延昭 末梢神経障害、副甲状腺機能低下症を伴ったTFP(三頭酵素)欠損症の病態解明

休憩(10:35～10:45)

教育福祉学部(10:45-11:33)

1. 舟橋 厚 障害のある子どものコミュニケーション行動に対する母親の概念変化に関する研究—量子力学的数理解析法による検討—
2. 竹澤大史 自閉症スペクトラム障害のある幼児の母親の育児ストレスについて
3. 飯田沙依亜 「居場所感のなさ」の基本構造
4. 長谷川桜子 介護職員等による医療的ケアの実施に向けた制度と運用方法のあり方に関する調査:障害福祉関係事業所を対象として

昼食休憩(11:33-13:30)

周生期学部(13:30-14:30)

1. 東 雄二郎 ZFX1転写制御因子ファミリーの出生後の脳における機能解明へ向けて
2. 西崎有利子 レポーターノックインマウスを用いたモワットウィルソン症候群の原因遺伝子SIP1の発現解析
3. 青野幸子 多動性症候群モデルマウス;ニューログリカンCノックアウトマウス
4. 時田義人 先天性永久歯欠損症の解析
5. 中西圭子 臍帯血幹細胞を用いた新生児脳障害治療の試み

休憩(14:30～14:40)

機能発達学部 (14:40-15:40)

1. 鈴木伸治 非アスリート身体障害者のエアロビックフィットネスと連続心拍数頻度分布図の歪み度との関係
2. 伊東保志 コンデンサマイクロフォン型筋音図センサの検討
3. 塚原玲子 筋収縮と皮膚交感神経発射-認知活動とのかかわり
4. 中村みほ 22q11.21欠失症候群における認知機能-ウィリアムズ症候群との比較のもとに-
5. 松村友佳子 VIQがPIQに比して比較的高値であったPVLの1例における認知処理と言語能力に関する検討

3月2日(木)

病理学部 (09:30-10:30)

1. 島田厚良 脱髄・再髄鞘化過程におけるプロスタグランジン $F_{2\alpha}$ 合成酵素の発現変動
2. 武井史郎 カイニン酸誘導てんかん発作に伴う海馬プロスタグランジン産生亢進の免疫組織学的解析
3. 千葉陽一 オリゴデンドロサイトにおけるプロスタグランジン $F_{2\alpha}$ の機能解析
4. 石井さなえ サイトカインを介した神経保護的グリア応答機能低下の慢性神経変性への関与
5. 古川絢子 てんかん外科切除脳組織を用いた酸化損傷タンパク質のプロテオミクス解析

休憩 (10:30~10:40)

発生障害学部 (10:40-11:40)

1. 中山敦雄 ニューロリギン4Xの主要プロモーターを制御する転写因子の解析
2. 正木茂夫 自閉症因子ニューロリギン4とAP-4 $\gamma$ サブユニットの相互作用
3. 川口禎晴 HDAC6の神経細胞における機能について
4. 深田齊秀 HDAC6阻害剤は抗うつ様作用を示す
5. 鈴木美穂 カタユウレイボヤ初期発生胚におけるDNAメチル化の解析

昼食休憩 (11:40-13:30)

神経制御学部 (13:30-14:47)

1. 永田浩一 Dysbindin-1複合体に対する抗体作成
2. 稲熊裕 マリネスコ・シェーグレン症候群の病態解明にむけて
3. 伊東秀記 神経突起の伸展におけるMAGI-1の機能解析
4. 篠田友晴 septin相互作用分子の網羅的解析
5. 西村嘉晃 子宮内胎仔脳遺伝子導入法を用いた神経細胞移動の制御機構の解析
6. 田口紋子 大脳皮質形成と血管形成の相関関係の解析

副所長あいさつ (14:47-14:52)

年間優秀論文賞発表 (14:52-15:02)